

ひまわりからの メッセージ

159号

2025.3.10

NPO ひまわりの花内

西濃圏域

発達障がい支援センター

発行人：中野たみ子

涙との出会い



三月七日、中学校の卒業式がありました。

義務教育を終えて巣立って行く生徒達、送り出す先生達、そして保護者の方々の胸にはどの様な思いが去来したのでしょうか。

この三月、私は多くの涙に出会いました。

人はなぜ泣くのでしょうか。うれしい時、かなしい時、くやしい時、さびしい時、感激した時など人生の様々な場面で涙を流します。もちろん泣けない程の辛さもあるに違いありません。

私はふっと泣き虫だった自分の幼少期を思い出しました。

私の両親は戦争中は東京に住んでいて疎開してこの地に住むことになったのですが、知人のいないこの地をなぜ選んだのか、私にはわかりません。ただ、私の想像では、金物にかかわる仕事をしていて関係上、金山彦命を祭神とする南宮大社の地だったからではないかと思うのです。当時の私たちは常に「よそもの」で、生活や食事など何事につけても好奇な目で見られていたと

思います。お弁当に入っていた四角いチーズは「ワーツ石鹸食べとる！」と言われたり、姉の形見のピアノには当時の級友が残っていた疵が今も残っています。そんなこんなで私はよく泣いていたのでしよう。「泣き虫毛虫は喜んで捨てろ！」の声も聴こえます。でも、何より悲しかったのは、小学校二年の時のできごとでした。ある時、クラスの友達が大切にしていた物が失くなったのです。その物が何だったのか思い出せないのですが、担任のA先生は皆に向かって「誰が盗んだのですか。皆、目を瞑って、盗んだ人は手をあげて下さい。嘘をつくと血を吐いて死にますよ」と、おっしゃったのです。私は思わず「血を吐いて死ぬなんてかわいそうです」と言ってしまったのです。結果、私が犯人とされたのでした。

この出来事は私の心の中に深く沈んで、もう何十年も前のことなのに忘れることができません。このままだと人間不信になっていたのでは、後に私は多くの素晴らしい先生方に出逢いました。もしもそういう出逢いがなかったら、きっと私の人生は違ったものになっていたことでしょう。

人のことばというものは恐ろしいものです。ある時は、その一言で救われることもあるでしょうし、一生忘れることのできない心の傷として残ることもあるでしょう。

三月、別れの季節です。この一年、振り返って、私のことばで傷ついた人はいなかったでしょうか。庭先でクリスマスローズが咲きはじめています。

福祉サービス

今のままで良いのかなあ……



福祉サービスがすっかり定着し、児童発達支援事業所や放課後等デイサービス事業所は増えつづけています。福祉の世界に会社が参入し、営利を目的とする所も見られます。営利目的が悪いわけではありませんが、本当に子どもたちの未来の幸せにつながっていくのか……ちやっと立ち止まってみませんか。

子どもが通所する事業所には必ず児童発達管理責任者（通称児発管）が置かれ、施設での個別支援計画の作成や、職員の指導にたずさわることになっています。一応「専門家」となります。しかし、その資格取得の条件として子どもの発達についての専門知識が無くても障害児者施設で三年働き、県が主催する講習会を受講すれば取得可能というシステムですが、ご存知ですか？ もちろん専門性の高い方もおられますが、残念ながら「……という方もいらっしゃるのが現状です。（失礼なことを言っでごめんなさい。）」

幼児が通所する児童発達支援事業所には「障害児」という規定はないはずですが、小学生以上の子ども達が通う放

課後等デイサービスは「障害児であって」というきまりがあります。しかも目的は「生活能力の向上」をうたっており、活動としては、①自立支援と日常生活の充実のための活動②創作活動③地域交流の機会の提供④余暇の提供となっています。

さて、この目的にそった支援がきちんとなされているでしょうか？放デイは宿題をやらせる所ではないようですが……？

保育所等訪問支援について

今回は、近頃ふえている保育所等訪問支援事業についての私見を述べたいと思います。この事業を要約してみます。

- ① 保護者の依頼に基く事業です。
- ② 利用者は、保育所等に通所している障害児で、集団生活に専門支援が必要な子どもです。
- ③ 保育所等とは、保育所、幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、乳児院など子どもが集団生活を営む施設です。
- ④ 目的はインクルージョン（地域生活への参加、包摂）を推進していくことの重要性を基本におきつつ、「子どもの集団生活への適応のための専門的支援を行う」となっています。
- ⑤ 専門的支援を行う職員への留意事項として「児童発達

支援が「イドライン」や「放課後等デイサービスのガイドライン」の内容理解に加えて「保育指針」「幼稚園教育要領」「小中高等の学習指導要領」等の内容についても理解し、留意しながら支援にあたること、訪問先の保育所等が大事にしている理念や支援方法を尊重しながら支援にあたることと明記されています。

⑥ 支援の場所は、園や学校です。放課後等デイサービスのようには子ども達が事業所に通ってくるのではなく、支援員が出かけて行って集団適応を支援するということです。

⑦ 支援内容としては、間接支援と直接支援があります。間接支援は、訪問先の環境整備を行ったり、訪問先の職員に対して子どもの理解を促し、子どもとの関わり方や活動の組み立てに対し助言や教示をすることです。

直接支援は、訪問先の生活や活動の妨けにならないように十分に配慮しながら集団活動に加わって支援します。

⑧ 支援回数は月二回、二週間に一回程度、支援時間は一時間程度、訪問先のスタッフへの助言、指導は三十分位というのが国の考える支援のようです。

さて、ここまで読んで皆さんはどう思われましたか。

私は、今まで何十年もの間、療育をしてきて、特別支援学校の専修免も公認心理師や言語聴覚士の資格ももってはい

ますが、専門加算のお金をいただいても、自分が専門家として保育所等訪問に出かけられるのかどうかと考えると、⑤の専門性や⑦の直接支援はとても出来ないなあと思ってしまいます。

一対一の学習支援や、人手不足解消のための困りのある子の個別支援などではないのです。今、お使いになっている園や学校も、もう一度この支援事業の目的に添ったものかどうか、考えてみられる必要があるのではないのでしょうか。

私は保育所等の中に特別支援学校が含まれていることも不思議では方がないのです。特別支援学校は地域の中で特別支援教育の中核としてセンター的機能の役割を任せています。その特別支援学校の校内に、インクルーシブを基本にもつこの事業の目的は、どの様に果たされるのでしょうか。福祉事業所の職員がどれ程の専門性をもって、支援学校の先生方に助言、教示指導をなさるのでしょうか。その事業所職員の教示を受けなければならない程の先生方の専門性の低さだと言うのでしょうか。障がいのある子への関わり方や子ども理解について、福祉事業所の職員の方が専門性が高いのでしょうか。私は違うと思います。

しかも、今、事業を利用して園の職員が特別支援学校や小学校などに保護者への助言としてお勧めになっていく

しやるとしたり、どう考えておられるのか、疑問です。

かつて、ある地域で、保護者の方がNPOを立ち上げ、この訪問事業を利用して自分の子が通う学校へ「専門員」として入られたことがあったと聞きます。???

行政機関は、本当にその事業所に専門性があるのかどうか、見極めた上で設置許可を出すべきでしょう。また、移行期支援として使うのであれば国の言うように一クール何回としての受給者発行を考えるべきではないでしょうか。

受け入れる園や学校も、「来てもらえれば助かる」ということではなく、この事業の目的に添った活動・支援がなされているのかどうか、しっかりした評価をしていただきたいと思うのです。そして、自分の園・学校の理念にそぐわないのであれば、きちんと事業所に伝えていくべきです。あいまいなままに済ませることは、子どもたちの自立を妨げ、事業所の専門性を高めることにもならず、その結果、他の子どもたちへの影響も大きくなっていくことになります。

効果がなければ効果がないと言うべきでしょうし、目的が達せられたのなら、すみやかに終了すべきです。園や学校と福祉事業所がなれ合いの関係になってしまうことは避けたいです。事業所の発言によって保護者と学校や園の関係が悪化するようなことはあってはならないことです。

家庭の中で育てること

園から小学校へ、小学校から中学校への引きつぎ会に参加させていただいていると、最近は学校へ配慮をお願いすることよりご家庭の生活に対して話すことが増えました。新入学児に

・登下校は家庭の責任で見守りをして！

・家庭のルール、ゲームやYouTubeの時間を決める。

・睡眠は9時間を保障（脳の発達のため）

・分類して片づけることを一年生から実行を！

特性のある不注意な子には、本人に気付かせる声かけを！

中学生ではメモをとる、カレンダーに貼ってスケジュール管理の練習や、自立に向けて生活面の見直しなどを話し、知的に発達のゆっくりなお子さんには、生活面での経験や体験の大切さを話すようにしています。

さて、お母さんたちの心にどの程度残ったのでしょうか。今は目の前のことしか見えていないですが、子どもはすぐに大きくなってしまいます。家庭の生活、大事にしてほしいですね！

<4月の予定>

14日 センター親の会

16日 ヒアサポート

※ 成人相談

14日 揖斐川町

8日 養老町

年度末ですから
1年のまとめをする。
経理や実績報告、
何かと忙しいですが
新年度に向け
また頑張ります。

